

一般財団法人 日本国際政治学会 2018年度研究大会 分科会プログラム

本プログラムは、2018年8月15日現在の暫定版です。最終的なプログラムは大会当日に配布いたしますのでご了承ください。プログラムに関するお問い合わせは、分科会代表幹事（片山慶隆：y-kata@kansai.ac.jp）までお願いいたします。

◆11月2日（金）

分科会セッション A (15:45～17:15)

- A - 1 日本外交史 I** 責任者 片山慶隆（関西外国語大学）
テーマ 外交記録公開の進化と戦後日本外交史研究（ラウンドテーブル）
モデレーター 高橋和宏（防衛大学校）
パネリスト 川島 真（東京大学）
白鳥潤一郎（放送大学）
福嶋香代子（外務省外交史料館長）
吉田昌弘（外務省外交記録・情報公開室長）
- A - 2 中東 I** 責任者 吉川卓郎（立命館アジア太平洋大学）
テーマ 中東における君主制同盟——拡大 GCC 構想をめぐる諸国の対応
司会 松尾昌樹（宇都宮大学）
報告 村上拓哉（中東調査会）
「体制転換の脅威と同盟——『アラブの春』とカタール断交危機における GCC 諸国の対応」
白谷 望（愛知県立大学）
「モロッコ的外交政策における対 GCC 関係の位置づけ——『南—南協力』推進という文脈から考える」
渡邊 駿（京都大学）
「拡大 GCC 構想におけるヨルダン——アラブの春後の地域秩序におけるスンナ派君主制同盟」
討論 君塚直隆（関東学院大学）
- A - 3 アフリカ** 責任者 杉木明子（慶應義塾大学）
テーマ アフリカにおける「ポスト・コンフリクト」と平和構築をめぐる様々な課題
司会 杉木明子（慶應義塾大学）
報告 藤井広重（宇都宮大学）
「アフリカ連合における地域的刑事裁判所設置の試みと国際刑事裁判所」
片山夏紀（東京大学／日本学術振興会）
「ルワンダ・ジェノサイド後の移行期正義」
討論 望月康恵（関西学院大学）

分科会セッション B (17:30~19:30)

- B - 1 東アジア国際政治史／東アジア I** 責任者 阿南友亮 (東北大学) / 飯田将史 (防衛研究所)
- テーマ 東アジア外交・安全保障の諸問題
- 司会 飯田将史 (防衛研究所)
- 報告 長谷川将規 (湘南工科大学)
「中国台頭に対する安全保障手段としての TPP」
李ウオンギョン (上智大学)
「日韓間のパブリック・ディプロマシーの現状と課題——両国政府のサイバー外交を中心として」
五十嵐隆幸 (防衛大学校)
「1960年代の『大陸反攻』——『攻勢戦略』から『攻守一体戦略』への転換」
- 討論 阿南友亮 (東北大学)
-
- B - 2 アメリカ政治外交 I** 責任者 小野沢透 (京都大学)
- テーマ 「超大国」アメリカ再考
- 司会 倉科一希 (広島市立大学)
- 報告 草野大希 (埼玉大学)
「ウィルソンのリベラル介入主義の再考——介入の『構造的問題』に直面していたウィルソン」
田中聡一郎 (一橋大学)
「尻尾が犬を振り回す——『白色革命』をめぐるイラン—アメリカ外交 1961~1964年」
- 討論 三牧聖子 (高崎経済大学)
小野沢透 (京都大学)
-
- B - 3 国際政治経済** 責任者 岡本次郎 (下関市立大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 岡本次郎 (下関市立大学)
- 報告 田巻宏将 (前橋清陵高等学校)
「日本の東アジア金融協力——制度間のネットワークの視点から」
尹 海圓 (東京大学)
「日韓の産業競争力をめぐる政治経済学——国際分業化時代のサプライチェーン調整にかかわる国家政策を中心に」
徐 博晨 (東京大学)
「国際経済を巡る規範の成立——アメリカと開発援助の『無償化』」
- 討論 和田洋典 (青山学院大学)
武内進一 (東京外国語大学／アジア経済研究所)

B - 4 **トランスナショナル I** 責任者 岡部みどり（上智大学）
テーマ <書評会> 『「国際政治学」は終わったのか（仮題）』（ナカニシヤ出版、2018年10月刊行予定）から、日本の国際政治学の過去・現在・将来をグローバルな視野から考える
司会 山本吉宣（新潟県立大学）
報告 葛谷 彩（明治学院大学）
 「『IR』から『歴史』への回帰——日本の国際政治学からの試み」
 芝崎厚士（駒澤大学）
 「終わりとは、はじまり——オルター国際政治学の構想と日本の国際政治学」
討論 酒井哲哉（東京大学）
 中西 寛（京都大学）

B - 5 **平和研究 I** 責任者 上野友也（岐阜大学）
テーマ 平和のアポリア
司会 松田 哲（京都女子大学）
報告 杉浦功一（和洋女子大学）
 「平和とデモクラシーの間のジレンマの検証——『神話』は崩壊したのか？」
 市川ひろみ（京都女子大学）
 「兵役拒否をめぐるアポリア——アポリアの認定・無視・粉飾と回避・緩和・解決」
討論 定形 衛（名古屋大学）
 高橋良輔（青山学院大学）

B - 6 **環境** 責任者 沖村理史（島根県立大学）
テーマ 環境政策の諸課題
司会 沖村理史（島根県立大学）
報告 中川洋一（立命館大学）
 「メルケル政権下のドイツのエネルギー・気候保全政策の変容と現状」
 大久保彩子（東海大学）
 「Do Norms Really Explain the Polarization of the International Whaling Commission? Alternative Hypotheses」
討論 渡邊理絵（青山学院大学）
 沖村理史（島根県立大学）

- C - 3 中東Ⅱ** 責任者 吉川卓郎 (立命館アジア太平洋大学)
- テーマ 中東の共和制国家と体制基盤確立の模索
- 司会 浜中新吾 (龍谷大学)
- 報告 辻田俊哉 (大阪大学)
- 「安全保障におけるレジリエンス構築の模索——イスラエルのサイバーセキュリティ政策を事例として」
- 河村有介 (日本学術振興会)
- 「Pension Reform under Authoritarianism: The Case of Egypt」
- 討論 岩坂将充 (同志社大学)
-
- C - 4 国際統合Ⅰ** 責任者 臼井陽一郎 (新潟国際情報大学)
- テーマ 地域主義と安全保障
- 司会 臼井陽一郎 (新潟国際情報大学)
- 報告 東野篤子 (筑波大学)
- 「東方パートナーシップ (EaP) の 10 年——EaP 形成過程における外的要因に関する試論」
- 岡本 至 (文京学院大学)
- 「アジア太平洋地域の 'Patrick Henry Moment'——地域的安全保障複合圏 (RSC) 理論の地域主義分析への応用」
- 討論 中村英俊 (早稲田大学)
-
- C - 5 政策決定** 責任者 本多倫彬 (キャノングローバル戦略研究所)
- テーマ 冷戦後の対外政策における自衛隊
- 司会 本多倫彬 (キャノングローバル戦略研究所)
- 報告 三百苜拓志 (平和・安全保障研究所)
- 「日米安全保障協議委員会(SCC)のプロセス——『2 プラス 2』の質的变化を中心に」
- 尹 在彦 (一橋大学)
- 「崩壊した戦後日本のタブーと北朝鮮拉致問題——小泉政権の政治手法とメディア環境、反発の沈静化を踏まえて」
- 加藤博章 (東京福祉大学)
- 「湾岸危機以降の国際貢献の模索」
- 討論 信田智人 (国際大学)
- 村上友章 (流通科学大学)

- C - 6 トランスナショナルⅡ** 責任者 岡部みどり（上智大学）
- テーマ 難民保護と国境管理のための南欧諸国間協力——EU 及び域外諸国との対話を中心に
- 司会 細田晴子（日本大学）
- 報告 坂井一成（神戸大学）
「地中海の移民難民問題をめぐるフランスの戦略」
八十田博人（共立女子大学）
「地中海移民難民保護とイタリア——国家と市民の相互作用」
今井宏平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）
「シリア難民に対するトルコと EU の協調行動」
- 討論 錦田愛子（東京外国語大学）
-
- C - 7 平和研究Ⅱ** 責任者 上野友也（岐阜大学）
- テーマ ハイブリッドな国家建設——自由主義と現地重視をつなぐ治安部門改革（SSR）の可能性と課題
- 司会 古澤嘉朗（広島市立大学）
- 報告 藤重博美（法政大学）
「第二世代の治安部門改革（SSR）——『自由主義』・『現地重視』の折衷は国家建設の妙策か」
クロス京子（立命館大学）
「東ティモールの治安部門改革（SSR）——国連と政府のせめぎあいから生まれた国家建設の方向性」
小山淑子（早稲田大学）
「ジョージア（グルジア）の治安部門改革（SSR）——不均衡な改革履行の力学と課題」
- 討論 中内政貴（大阪大学）
キハラハント愛（東京大学）
-
- C - 8 ジェンダーⅠ** 責任者 和田賢治（武蔵野学院大学）
- テーマ 紛争影響下のジェンダーに基づく暴力（Gender-based violence: GBV）
- 司会 川口智恵（JICA 研究所）
- 報告 飛内悠子（盛岡大学）
「支援とジェンダー、GBV への認識との関わり——南スーダン難民の事例から」
福井美穂（難民を助ける会／東京大学）
「被害者支援における援助の役割——南スーダン難民調査を踏まえて」
- 討論 中西久枝（同志社大学）

◆11月4日(日)

分科会セッションD(9:30~11:00)

- D - 1 日本外交史Ⅱ** 責任者 片山慶隆(関西外国語大学)
- テーマ 戦後日本外交と東アジア国際政治
- 司会 片山慶隆(関西外国語大学)
- 報告 西村真彦(京都大学)
「1950年代の台湾海峡危機と日米安保体制」
大竹徳典(無所属)
「田中政権による日中国交正常化の交渉過程の再検討」
- 討論 井上正也(成蹊大学)
神田豊隆(新潟大学)
-
- D - 2 欧州国際政治史・欧州研究Ⅰ** 責任者 齋藤嘉臣(京都大学)
- テーマ 北欧における冷戦
- 司会 齋藤嘉臣(京都大学)
- 報告 竹澤由記子(大阪女学院大学)
「ノルウェーの『基地政策』とその戦略的・政治的意義についての考察——1950年代から60年代までを中心に」
鈴木悠史(慶應義塾大学)
「スウェーデンの核開発から核軍縮への道——ウンデーンの非核クラブ構想の歴史的再検討」
- 討論 五月女律子(神戸市外国語大学)
清水 謙(立教大学)
-
- D - 3 東アジアⅡ** 責任者 飯田将史(防衛研究所)
- テーマ 東アジア諸国のグローバルな秩序形成戦略
- 司会 飯田将史(防衛研究所)
- 報告 小川裕子(東海大学)
「G77+中国のグローバル秩序形成戦略——イシュー・リンケージによる公平性の実現」
勝間田弘(東北大学)・永田伸吾(金沢大学)
「ASEANによる大国の制御——東アジア秩序形成を主導するマイナーパワーの外交戦略」
堀内賢志(静岡県立大学)
「ロシアの『東方シフト』と『多極化』戦略」
- 討論 湯浅 剛(広島市立大学)
野口和彦(群馬県立女子大学)

- D - 4 理論と方法 I** 責任者 多湖 淳 (早稲田大学)
- テーマ テキスト分析が切り開く国際関係研究
- 司会 多湖 淳 (早稲田大学)
- 報告 渡辺耕平 (早稲田大学)
- 「国際政治研究における文書データの量的分析」
河合将志 (国立情報学研究所)
- 「大統領演説に見るウィルソン主義——計量テキスト分析による再考」
前川和歌子 (エセックス大学)
- 「Estimating Preferences of Conflict Parties in Civil Wars」
- 討論 多湖 淳 (早稲田大学)
-
- D - 5 国連研究** 責任者 本多美樹 (法政大学)
- テーマ 変容する国際秩序と加盟国の国連観
- 司会 本多美樹 (法政大学)
- 報告 半澤朝彦 (明治学院大学)
- 「イギリスの国際秩序観と国連観——スエズ危機とイラク戦争、そして平和維持活動など」
上杉勇司 (早稲田大学)
- 「日本の国連平和活動観」
- 討論 青井千由紀 (東京大学)
-
- D - 6 平和研究Ⅲ** 責任者 上野友也 (岐阜大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 上野友也 (岐阜大学)
- 報告 小阪真也 (立命館大学)
- 「国際刑事法廷における『積極的補完性』の実行と国内の法の支配の確立——紛争後ボスニアとセルビアにおける旧ユーゴスラヴィア国際刑事法廷 (ICTY) のアウトリーチおよび能力構築機能の意義」
松寄英也 (北海道大学)
- 「黒海における民族少数派と領域制度——ウクライナとモルドヴァの比較分析」
- 討論 片柳真理 (広島大学)
- 中溝和弥 (京都大学)

分科会セッション D・E (9:30~12:45)

D・E	アメリカ政治外交Ⅲ／ ラテンアメリカ	責任者	小野沢 透 (京都大学) / ロメロ イサミ (帯広畜産大学)
テーマ	米州機構体制の 70 周年		
司会	ロメロ イサミ (帯広畜産大学)		
報告	高橋亮太 (慶應義塾大学) 「米州システムにおけるブラジルの役割——米州機構設立 70 周年を記念して」 中嶋啓雄 (大阪大学) 「『西半球』概念と米州機構——モンロー・ドクトリンとの関連において」 江原裕美 (帝京大学) 「『進歩のための同盟』の機構と活動——開発と教育の視点から」		
討論	上村直樹 (南山大学) 上 英明 (神奈川大学)		

分科会セッション E (11:15~12:45)

E - 1	日本外交史Ⅲ	責任者	片山慶隆 (関西外国語大学)
テーマ	戦間期日本外交の再検討		
司会	片山慶隆 (関西外国語大学)		
報告	種稲秀司 (國學院大學) 「外交官幣原喜重郎の理念と外交指導」 金子貴純 (大東文化大学) 「日本外務省の対中国『危機管理外交』の展開過程—1936 年を中心に」		
討論	伊香俊哉 (都留文科大学) 西田敏宏 (椋山女学園大学)		
E - 2	欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ	責任者	齋藤嘉臣 (京都大学)
テーマ	戦間期国際秩序の再検討		
司会	小川浩之 (東京大学)		
報告	大原俊一郎 (亜細亜大学) 「ヨーロッパ諸国家体系からグローバル国際システムへ——戦間前期の世界秩序における日独外交の役割」 細川真由 (京都大学) 「第 1 次エリオ政権と国際連盟——ジュネーヴ議定書をめぐるフランス外交政策」		
討論	渡邊啓貴 (東京外国語大学)		

- E - 3 理論と方法Ⅱ** 責任者 多湖 淳（早稲田大学）
- テーマ 安全保障研究における理論と方法
- 司会 多湖 淳（早稲田大学）
- 報告 芝井清久（統計数理研究所）
「核不拡散政策における IAEA 査察の抑止効果とその限界点——ベイジアン・モデルによる査察戦略の検証」
小山達也（東京大学）
「Disaggregating Peace Failure: The Two Distinct Paths Toward Armed Conflict Recurrence」
増永 真（秀明大学／明治学院大学）
「同盟国の政策変更による『バランスング』の機能変化とその受益国の対応——北朝鮮と台湾の対外行動を事例として」
伊藤隆太（慶應義塾大学）
「なぜナショナリズムは戦争を起こすのか——新たな理論的枠組みの構築に向けて」
- 討論 伊藤 岳（広島大学）
-
- E - 4 国際統合Ⅱ** 責任者 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
- テーマ EU 政策過程における非国家アクターの役割
- 司会 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
- 報告 吉沢 晃（同志社大学）
「EU 競争政策の正統性——消費者の視点から」
河越真帆（神田外語大学）
「航空に関する環境規制と民間団体——EU および ICAO レベルでの考察」
- 討論 中野 聡（豊橋創造大学）
-
- E - 5 安全保障** 責任者 千々和泰明（防衛研究所）
- テーマ 現代安全保障課題の諸相——PKO・不拡散・国際機構
- 司会 千々和泰明（防衛研究所）
- 報告 庄司貴由（日本大学）
「細川政権期の PKO 政策——国連エルサルバドル監視団（ONUSAL）と日本」
日高 薫（大阪大学）
「生物化学兵器の拡散をめぐる『貧者の核兵器』論の再検討」
秦野貴光（筑波大学）
「International Norms and Law in an Age of ‘Contested Multilateralism’: The Case of Russian Regional and International Security Policy」
- 討論 千々和泰明（防衛研究所）
戸崎洋史（日本国際問題研究所）

- E - 6** **国際交流** 責任者 馬場 孝 (静岡文化芸術大学)
- テーマ 日本における国際協力思想の規範化と制度化——戦前・戦後の断続と連続
- 司会 馬場 孝 (静岡文化芸術大学)
- 報告 湯浅拓也 (青山学院大学)
- 「前田多門と近代日本の国際協力論——
- 新渡戸稲造のキリスト教人格主義における『ソシアリチー』に注目して」
- 秋月三左子 (早稲田大学)
- 「日本における開発援助制度の形成過程——1970年代以降を中心に」
- 討論 牧田東一 (桜美林大学)
-
- E - 7** **ジェンダーⅡ** 責任者 和田賢治 (武蔵野学院大学)
- テーマ 戦後を生きる人々とジェンダー
- 司会 和田賢治 (武蔵野学院大学)
- 報告 北村陽子 (名古屋大学)
- 「寡婦たちの戦争——第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護」
- 望戸愛果 (日本学術振興会)
- 「第一次世界大戦後アメリカにおける『戦争体験』のジェンダー化された序列」
- 討論 竹中千春 (立教大学)